



平成28年8月29日
横浜市立金沢小学校
横浜市金沢区町屋町26-26
☎781-2401

子どもの個性と可能性

学校長 高木 篤子



今年の夏、リオオリンピックでの熱戦に盛り上がりました。選手の皆さんは、想像を超える努力を重ね、強い心で各競技の臨んだことでしょうか。果敢に挑む選手の姿とともに、熱い声援を送ったり、祈るように目を閉じていたりしていたご家族の姿が時折画面に映っていました。試合後に、選手が応援席に駆け寄って歓喜に包まれる様子、支えてくれた方々へ感謝の気持ちを述べていた謙虚な言葉も印象的でした。

白井健三選手のお父さんが、「一度も体操をやりなさいと言ったことがない。本人が望まない限り、モノにはならない。」と語っていた記事を目にしました。体操の環境だけ充実させ、そこで白井選手は、ひねりのイメージを磨き上げたとのこと。「好きなことを研ぎ澄ませ。」と、息子の背中を押したそうです。

福原愛選手の本棚には、幼い頃にお母さんが読んでくれたイソップ童話「北風と太陽」の本があるそうです。「自分本位で事をなしてもうまくいかない。相手の気持ち、立場になって考えないとダメですね。学ばせていただいています。」と福原選手は話していました。この言葉と、チームのキャプテンとして常に気を配っていた姿と重なりました。

吉田沙保里選手のお母さんは、「『靈長類最強』と言われても、私の娘です。負ける時は絶対に来てしまいますが、本当に頑張って素晴らしいことをしてくれた。」「立派な銀メダル。娘を誇りに思います。私の宝。」と、インタビューの中で娘をねぎらっていました。

選手を育み、見守り続ける親心に思いを馳せている折、雑誌の特集に目が留まりました。その中で「子どもの才能を伸ばすために必要な力」として、「素直になる力」「挑戦する力」「継続していく力」という三つの力が挙げられていました。アドバイスを聞き、反省や修正をするなど、受け入れる素直になる力。興味をもつだけでなく積極的に行動に移す、考えるだけでなく行動してみる姿勢など挑戦する力。簡単に投げ出さず、あきらめずに継続していく力。小さな成功体験から、「継続は力」を体感することができると言われていました。

(『PHPのびのび子育て9月号』参照)

オリンピック選手のように華々しく活躍をするということではなく、それぞれの子が自分の興味関心を広げて挑戦し、自信をもって進んでいくことができるように支え、励まし、そして自立へと導くことの大切さを感じます。

子どもの個性が輝き、可能性が広がっていくことを期待し、共に応援していきましょう。